マライ方面部隊略歴

1232

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南方燃料廠

ジャワ燃料工廠（第一五八五四部隊）

年月日	概要
昭和一七、三、一	一、編成前の状況 第四十八師団独立工兵第三連隊、師団主力に跟随し、東部「ジャワ」「クラガン」に上陸、師団の進攻作戦と共に逐次燃料資源並施設を奪取、直に現地資材並破壊焼残器資材を使用し復旧を開始せり 占領当時に於ける施設の概要左の如し 左記 1、「ウオノコロモ」製油工場（スバラヤ） 製油主要装置は略完全にして若干の修理、加工せば運転可能 修理に約三ヶ月を要す 2、「チエプ」製油工場（「パテー」州）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	製油工場全焼、全壊し使用不能、再建ニ、ニ～三年を要す
	3「スバラヌ」「クルーカ」油田（含む「リダクーロン」）
	自噴井(一)火災中、油井は略完全なりしも地上施設全壊し採油不能
	4、「ウオノサリ」油田（「ボヂヨネゴロ」洲）
	地上施設全焼、全壊、油井坑内爆破埋没約四十井にして採油不能
	5「レドツク」「ロボー」地区油田（「パテー」洲）
	地上施設全壊半焼採油不能
	6 貯油施設
	破壊し直に使用し得るものなし
	二昭和十七年（編成完結　業務引継）
	1、軍令陸乙第二八号に依り第方燃料廠編成下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同年五月十日、西貢に於て鉱成完結し　同月「シマワ」支廠も鉱成完結し　同月十八日西貢発　六月五日「スバラヤ」に到着　直に本部を「スバラヤ」に置き　前項独立工兵第三連隊より業務の引継ぎを開始すると共に探油　及附属設備の復旧作業に協力せり

2、六月十二日満州石油株式会社供出員（技術者以下）里帰とし　一五〇名　約二千屯の復旧資材と共に到着「チエプー」製油工場の建設も本格的段階に入れり

3、此頃「スラバヤ」製油工場並「グルーカ」（「スラバヤ」）油田は略完成「ウオノサリ」（「ボテヨネゴロ」洲）油田、其の他油田も逐次復旧し一部の探油可能なり

4　同年七月一日「ウオノコロモ」製油工場（第一工場）並「グルーカ」油田（第三鉱場）の復旧を完成し　其の他は製油探油工（鉱）場も逐次復旧作業進捗しあり　同日独立工兵第三連隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	より完全に業務の引継を完了　同日を以て建設員約四〇名も支廠に転属し以来独力燃料資源の復旧建設並採製油に邁進せり
	5　六月　満州石油会社供出員（前記）に引続き帝国石油会社員微員、部内者逐次到着　同年末に於ける人員将校以下四六五名へ以下資料なきため一、二名の過誤あり）にして復旧建設も亦順調に進歩、約月一万坪の原油処理（生産）をなし得るに至れり 同年中に於ける人員状況左の如し 記 左 転入　四六六名 転出　一名 死亡者　ナシ 差引計　四六五名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	三　昭和十八年 1. 五月一日「チエプー」製油工場（第二工場）の建設を完了 之と併行し「ウオノサリ」（第一鉱場）「レドック」「ロボ」油田へ第二鉱場）の復旧も約五〇％完成送油可能となり　同日より運転開始、月約一万二千杆の原油を処理し得るに至る 2 次ニ工場（チエプー）建設完了に引続き　直に同地に製蝋装置並ニ蒸留装置（フオスター）の建設に着手せしが　資材の入手困難のため直渉意の如くならず 之が為「ビルマ」よりの資材輸入（移設）現地資材の更生に努力し一路之が達成に努力せり 3 同年末「ウオノサリ」「レドック」「ロボー」其の他の小油田の復旧作業も完成し（月）約五万杆の採油可能に至り　原油処理量も両工場を合し（月）約二万七、八杆に達し「ジマワ」島を中心とする島嶼各地の軍需の需給を充たすと共に一部の原油を海軍（パリグパパン）に移送せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	4 其の他の附属設備も亦概ね完成貯油能力約一三〇、〇〇〇竏（ヘスラバヤ地区約五二〇〇〇竏、チェプー地区約七六、〇〇〇竏）なり 5 十二月末に於ける人員 将校以下五四〇名 同年中に於ける人員状況左の如し 左記 転入 一一六名 転出 三七名 死亡 四名（恩賞関係処置済） 差引計 五四〇名
四昭和十九年	
1. 五月十七日 オーエ場（ウオノコロモ）爆撃を受け、貯油タンク若干（四基）を残すの外全施設倒壊全焼し製油不能に陥れり 之がため八月同量処理能力の製油工場疎開再建設に着手する	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	と共に潤滑油製造装置並に三所に簡易製油装置の起工を開始せり
	2　六月建設中の製蝋装置完成操業を開始す
	3　昭和十九年四月十日軍令座甲第二一号に依り南方燃料廠編成改正　同日を以て「ジャワ」燃料工廠と改称、現在員及「ビルマ」に在りし野戦作井第十中隊を「ジャワ」燃料工廠に復帰（編入）せしめられ　之を以つて編成を完結す 但し一部のみ「ジャワ」に復帰し、主力は依然「ビルマ」に在りて勤務す
	4　二月技術を有する兵科将校二二名到着　四月約五十名の技術者「ボルネオ」工廠に転属し其の他若干の転出入ありたるも、同年末に於ける人員将校以下六〇〇名 同年中に於ける人員状況左の如し 転　入　一五六名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	転出　九四名 死没　二名（恩賞関係処置済） 差引計　六〇〇名
五昭和二十年	
	1、疎開建設中の第一工場（ウオノコロモ）並附属洞窟製造装置は四月一日完成　爆撃前に於ける生産能力に復帰せり
	2　二月、内地疎開増産要員として将校高等官以下技術者五二名転出し為に爾后の開発建設に相当の困難を生ぜしも挙廠一体任務達成に努力せり
	3　八月迄に於ける人員状況左記の如し 転入　一一七名 転出　七二名 死没　五八名（阿波丸五五名　但し阿波丸五五名は南方燃料廠本部より市しあるやも知れず　其の他二名　内訳不明） 差引計　五八六名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	4、八月十四日現在に於ける人員表並自昭和二十年八月十五日、至昭和二十一年六月三日 間に於ける 転出入損耗人員別紙 第一、二の如し（以后復員完結迄の損耗転出入人員は附実す）
	六、歴代工廠長
	1、初代 陸軍中佐 伊理仁一
	2、二代 陸軍少将 川畑金城
	3、昭和二十年九月小畑少将 第五師団長代理として転出したるも後任令謀なく
	総務科長 陸軍大佐 河野秀次郎 工廠長代理として廠務を統理し現任に至る
	七、部隊事情精通者左の如し
	左記
	住所 [redacted]
	（元人事主任） 陸軍嘱 藤尾象五郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	住所 [redacted] （元人事係）　陸軍曹　中村君彦 住所 [redacted] （元庶務兼人事班長）陸軍中尉　山崎未美 八、其の他参考事項 1、本部隊略歴には終戦時「ビルマ」燃料工廠長の指揮下に在り同日該部隊に転属せし「ジャワ」燃料工廠作井中隊主力及一部の後帰中、昭南より　才二五軍司令官の指揮に入り「ニコバル」に転進、終戦に至り以后の消息不明の書長　浜砂克一以下二十名の人員は含みあらず 2　前項中隊主力中　昭和二十年（三月）頃（工廠隷属時）「ビルマ」兵の殺害を受け、戦死せし左記者の庶務業務、書類未着（戦時名簿其の他「インドネシヤ」独立事件のため捜索若干の為

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3の内

マライ方面

年月日	概要
	未整理　目下調査中なり 記 曹長　田崎玉一　伍長　東重夫 兵長　岩下唯士　兵長　浜崎義友 上等兵　住吉重雄 3 阿波丸遭難者徴員（勅扱）千谷好之助以下五五名の恩賞業務も未了（但し南方燃料本部に於て徴員時上申せしやも知れず調査中）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第二十六旅団
独立歩兵第百四十六大隊

年月日	概要
昭和一九、一、八	「スマトラ、ベンクーレン」に於て編成
仝 二〇 七	蘭右翼部スマトラ西海岸北地区（ベンクーレン州）の防衛
	「シンガポール」に転進
	「シンガポール」東防衛地区の防衛に任ず
	終戦に至る

一、歴代部隊長名

1. 陸軍大佐　中田正之
2. 陸軍少佐　石川音五郎
3. 陸軍少佐　向柄善太郎

一、部隊幸情精通者

住所　[redacted]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

4の外

マライ方面

年月日	概要
	住所 [redacted] 陸軍大尉 藤本武
	住所 [redacted] 陸軍大尉 吉原康雄
	住所 [redacted] 陸軍大尉 松永宏巳

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦史資料調査表

南方軍復員本部復員課

独立歩兵第三百六十三大隊　陸軍少佐　吉岡正五　自一九、三　至二〇、六

鐵第一五八四六部隊　陸軍少佐　福島庄　自二〇、七　至二一、七

年月日	概要
昭和一九、三、一〇	編成完結
一九、三、二八	「ニコバル」諸島「カモルタ」島に集結
	頗市同島警備
二〇、六、二九	吉岡部隊長戦病死
二〇、七、一一	福島部隊長着任
二〇、八、一五	終戦
二〇、一二、三	「ニコバル」諸島「カモルタ」島発収

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭和二〇、二、二八	「レンパン」島到着
二、六、一八	「レンパン」島出帆
二、六、二〇	大竹入港

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(58)

1248

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp